

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
			3	3	学 年	二年次
TOEIC II	講義	年単位時間	前期	後期	教 員	小倉 茂雄
			60	60	実務経験	有

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	TOEIC Listening & Reading TEST スコア400点以上
使用教科書・副教材等	TOEIC TEST 必ず☆でる単スピードマスター 英会話ペラペラビジネス100
教員実務経験	海外事業部門で、海外企業との技術導入に係る業務に携わった経験 航空機メーカー等との英語によるコミュニケーションを行った経験

### 2 追試験基準

前期	定期考査50点未満
後期	定期考査50点未満

### 3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

### 4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	80 %	仮評価	仮評価 試験成績	100 %
	学習への取り組み	20 %		%	
		%		%	
		%		%	

### 5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 二 期	① 単語、熟語の習得 400点レベル(300語) 500点レベル(200語)	4	1) 単語、熟語の習得(100語) 2) 会話表現のマスター(Lesson39~40)	①~② 仮評価 1)~4) 前期試験 5)~10)
		5	3) 単語、熟語の習得(100語) 4) 会話表現のマスター(Lesson41~44)	
	② 英会話の習得 Regular Contact	6	5) 単語熟語の習得(100語)、模擬試験(Reading) 6) 会話表現のマスター(Lesson45~50)	
	③ TOEIC L&R TEST 受験	7	7) 単語、熟語の習得(100語) 8) 会話表現のマスター(Lesson51~58)	
		8	9) 単語、熟語の習得(100語) 10) 会話表現のマスター(Lesson59~62)	
	学 年	④ 単語、熟語の習得 500点レベル(100語) 600点レベル(250語)	10	
11			3) 単語、熟語の習得(150語) 4) 会話表現のマスター(Lesson71~76)	
⑤ 英会話の習得 Heavy Contact		12	5) 模擬試験(Reading) 6) 会話表現のマスター(Lesson77~80)	
⑥ TOEIC L&R TEST 受験		1	7) 単語、熟語の習得(50語) 8) 会話表現のマスター(Lesson80~83)	
		2		
		3		

### 6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
			3	3	学 年	二年次
基本作業Ⅱ	実習	年単位時間	前期	後期	教 員	呉屋 宏
			60	60	実務経験	有

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空機の整備作業の基礎となる基本作業の技能を習得する
使用教科書・副教材等	・航空機の基本技術
教員実務経験	航空機整備支援業務に携わった経験

### 2 追試験基準

前期試験	課題・小テスト 50点未満
後期試験	課題・小テスト 50点未満

### 3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

### 4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	各章の課題・小テスト成績	80 %	仮評価	各章の課題・小テスト成績	100 %
	実習態度・安全対策	20 %			%
		%			%
		%			%

### 5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考查範囲
前 期	①締結法、表面処理	4	1) 締結法、表面処理作業を実習にて再度理解する	仮評価 ①～②
	②電気工作作業	5	1) 航空機用電線、配線固定方法、について理解する 2) ターミナル接続方法、コネクタ構造について理解する	
	③電気計測	6	1) はんだ付け作業を理解する 2) 組立キットのマルチ・テスターを組立	前期試験 ①～⑤
		7	1) マルチ・テスターの測定法、注意事項を理解する 2) メガー・テスターの測定法、注意事項を理解する	
		8	1) 浸透探傷検査の方法を理解する 2) 車両の日常点検方法と不具合の対処法を理解する	
④非破壊検査 ⑤車両構造、トラブルシュート				
後 期	⑥ケーブル	10	1) ケーブル・リギング、ターンバックル調整等を理解する 2) ホースの特性、チューブの特性を実技を通して理解する	卒業試験 ⑥～⑩
	⑦ホース・チューブ			
	⑧構造修理	11	1) 構造部の処置の仕方を理解する 2) オーバー・パッチの作業方法を理解する	
	⑨基本作業のまとめ	12	1) 成形法(アルミ板曲げ加工等) 実技を再度復習理解する 2) 機械計測(ノギス、マイクロ・メーター等) 実技を再度復習後理解	
		1	1) ベンチ作業(タップ、ダイス作業等) 実習を再度復習後理解する	
	⑩KYT危険予知	2	1) 危険予知活動の概要を理解する 2) 体で覚える安全行動を身につける	
3				

### 6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
コンピュータ応用	演習		2	2	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	加藤 勇
			40	40	実務経験	有

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	社会人に向けたメール活用法を習得 情報処理技能検定試験2級以上取得を目指し、就職先での活用を目的とする
使用教科書・副教材等	Microsoft Excel2019 クイックマスター応用編 情報処理技能検定試験 表計算 模擬問題集
教員実務経験	

### 2 追試験基準

前期試験	評価の50%未満は追加課題
後期試験	評価の50%未満は追加課題

### 3 補習授業基準

前期	科目出席率80%未満
後期	科目出席率80%未満

### 4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	試験評価	70 %	仮評価	試験評価	100 %
	出席率	15 %			%
	学習への取り組み	15 %			%
		%			%

### 5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考查範囲
第 二 期	① Excel基本編おさらい ② メール活用	4	1)1年次までに習得したExcel基礎をおさらい 2)課題提出方法としてメールを活用	情報処理 模擬問題
		5	1)データの入力規則、名前の定義、データの保護など入力効率化全般について学習	
	③ Excel入力補助機能	6	1)使用頻度の高い代表的な関数について学習 2)情報処理技能検定2級/準1級受験対策	
	④ Excel関数(応用)	7	1)情報処理技能検定2級/準1級受験対策	
	⑤ 情報処理技能検定問題(各級)	8	1)グラフ自体の機能を拡張する操作とデータ予測について学習 2)ワークシートの集計・ブックの連携など効率的な扱い方を学習	
	⑥ Excelグラフ機能(応用)	10	1)オートフィル・データの並べ替え・複雑な条件による抽出・小計機能など、基本編で学んだデータベース機能の応用を学習	
	⑦ Excelワークシート	11	1)Excelで作成したデータの問題点を様々なキーワードで「分析」 2)マクロの登録・実行を学習	
学 年 後 期	⑧ データベース機能 ⑨ データの分析 ⑩ 処理の自動化	12	1)⑥⑦⑧のまとめ	情報処理 模擬問題
		1	1)効率よくデータ入力作業を進めるための様々な「しくみ」を学習 2)フィルター、グラフなどの機能を使い経営分析を学習	
	⑪ アプリケーション活用 ・貸出リストの作成 ・貸出リストの分析 ・最適化分析と処理の自動化	2	1)総合学習問題 2)情報処理技能検定準2級～1級受験対策	
		3		
	⑫ 情報処理技能検定問題(各級)			

### 6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
就職実務Ⅱ	講義		1	1	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	加藤 勇
			20	20	実務経験	有

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	・就職後のビジネスマナーの周知 ・福利厚生 of 仕組みを周知(給与明細、年金制度)
使用教科書・副教材等	ビジネス実務マナー検定 2級・3級 らくらく合格 テキスト&問題集(翔泳社) 働くこと労働法(厚生労働省)
教員実務経験	

### 2 追試験基準

前期試験	成績評価の50%未満
後期試験	成績評価の50%未満

### 3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

### 4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	試験評価	70 %	仮評価	試験評価	100 %
	出席率	15 %			%
	学習への取り組み	15 %			%
		%			%

### 5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考查範囲
第 二 期	【ビジネス実務マナー検定】 基本マナー 会話マナー 接客マナー 冠婚葬祭 業界に関する(総括)	4	1.基本マナー 身だしなみや、ハウレンソウなどの働くうえでの基礎を学習。	前期試験
		5	2.会話マナー 尊敬語、謙譲語、丁寧語のTPO、応用を学習。	
		6	3.接客マナー 挨拶、名刺交換、訪問の際のノーハウを学習。	
		7	4.ビジネス文書 ビジネス文書の基礎知識	
		8	5.冠婚葬祭マナー 業界に付随したマナー実例などを学習。前期総括。	
学 年 期	【働くこと労働法】 社会人基礎力 年金制度 給与明細 労使協定など	10	1.社会人基礎力 社会で活躍する為の向上心やを養い個人目標を設定。	後期試験
		11	2.年金制度 基本的な知識を学習。	
		12	(国民年金と厚生年金の違いを確認)	
		1	3.給与明細 源泉徴収内容や、労使折半に関して学習。	
		2	4.労使協定など	
3	1~4に付随したその他の労使協定について。			

### 6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
就職対策Ⅱ	講義		2	2	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	比嘉 翼
			40	40	実務経験	有

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	就職筆記試験に必要な計算力や知識を身につける。
使用教科書・副教材等	SPI基礎からはじめる問題集
教員実務経験	専門学校にて教員として就職筆記試験対策に関する指導経験あり

### 2 追試験基準

前期	定期考査50点未満
後期	定期考査50点未満

### 3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

### 4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	前・後期試験の成績	70 %	仮評価	仮評価試験の成績	100 %
	学習活動への取り組み	30 %			%
		%			%
		%			%

### 5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 二 学 年	①非言語能力	4	1)推論	仮評価試験 ① 1)～3) 前期試験 ① 4)～14)  卒業試験 ②～④
		5	2)順列・組み合わせ 3)確率	
		6	4)割合と比      5)損益算 6)仕事算      7)速度算	
		7	8)集合      9)表の解釈 10)特殊算	
	8	11)情報の読み取り      12)物の流れ 13)グラフと領域      14)条件と領域		
	②言語能力  ③英語ENG	10	1)二語の関係 2)語句の意味	
		11	3)文の並び替え 4)空欄補充      5)長文読解	
		12	1)同意語 2)反意語	
1		3)空欄補充 4)長文読解		
④構造的把握能力	2	1)非言語 2)言語		
	3			

### 6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
			1	1	学 年	二年次
航空力学Ⅱ	講義	年単位時間	前期	後期	教 員	比嘉 翼
			20	20	実務経験	無

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	飛行機が離陸から着陸までの間に翼や胴体、プロペラなどに作用する力や、飛行機の運動および性能について理解している
使用教科書・副教材等	空を飛ぶはなし
教員実務経験	

### 2 追試験基準

前期	定期考査50点未満
後期	定期考査50点未満

### 3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

### 4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	70 %	仮評価	仮評価試験の成績	100 %
	学習への取り組み	30 %		%	
		%		%	
		%		%	

### 5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲	
第 二 学 年	①空を飛ぶ力学	4	1) 静安定がわかる 2) 上反角がわかる	仮評価試験 ① 1)～3) 前期試験 ① 4)～9)  卒業試験 ②	
		5	3) 後退角の上反角効果がわかる 4) 尾翼の後退角がわかる		
		6	5) 補助翼、方向舵、昇降舵がわかる		
		7	6) トリムがわかる 7) タブがわかる		
	8	8) 高揚力装置がわかる 9) フラップの種類がわかる			
	後 期	②空を飛ぶ性能	10		1) 飛行機の耐空類別がわかる 2) 単発機、輸送機の離陸がわかる
			11		3) 離陸速度と離陸距離がわかる 4) 離陸滑走中の力関係がわかる
			12		5) 上昇勾配、上昇角、上昇率、上昇中の力のつり合いがわかる 6) 最良上昇勾配速度、最良上昇率速度がわかる
1			7) 航続率、巡航方式、最適高度がわかる 8) 旋回半径、荷重倍数がわかる		
2			9) 降下、滑空、降下率と飛行重量がわかる 10) 着陸進入、着陸距離がわかる		
	3				

### 6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
発動機Ⅱ	講義		2	2	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	呉屋 宏
			40	40	実務経験	有

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	タービン・エンジンの性能及び構造内容を理解している
使用教科書・副教材等	・タービン・エンジン ・航空工学入門
教員実務経験	航空機整備支援業務に携わった経験

### 2 追試験基準

前期試験	定期考査50点未満
後期試験	定期考査50点未満

### 3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

### 4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	80 %	仮評価	仮評価試験成績	100 %
	学習への取り組み	20 %		%	
		%		%	
		%		%	

### 5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 二 期	①エンジンの分類 ②エンジンの概念 ③熱力学	4	1)航空エンジンの分類を理解する 2)各種型式と動力装置の具備条件を理解する	仮評価 ①～③
		5	1)熱量と仕事を理解する 2)気体の比熱を理解する	
		6	1)完全ガスの性質と状態変化を理解する 2)内燃機関のサイクルを理解する	
	④タービン・エンジンの概要 ⑤タービン・エンジンの出力 ⑥タービン・エンジン本体の基本構成要素	7	1)タービン・エンジンの推力と軸出力を理解する 2)タービン・エンジン性能を表す各計算式を理解する	前期試験 ①～⑥
		8	1)タービン・エンジンの構造を理解する 2)タービン・エンジンの作動原理を理解する	
		10	1)タービン・エンジンの燃料の要素及び性質を理解する 2)タービン・エンジン用の滑油の具備条件を理解する	
学 年 後 期	⑦タービン用燃料及び滑油 ⑧タービン・エンジンの各種系統	11	1)タービン・エンジンの各種系統を理解する	卒業試験 ⑦～⑩
		12	1)タービン・エンジンで使用される各材料の概要を理解する	
	1	1)整備士試験問題集を活用してタービン・エンジンを復習する		
	2	1)整備士試験問題集を活用してタービン・エンジンを復習する		
	3			

### 6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
			3	3	学 年	二年次
機体構造Ⅱ	講義	年単位時間	前期	後期	教 員	呉屋 宏
			60	60	実務経験	有

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空機の機体及び航空機のシステムの基礎的な構造を理解している
使用教科書・副教材等	・飛行機構造 ・航空工学入門
教員実務経験	航空機整備支援業務 に携わった経験

### 2 追試験基準

前期試験	定期考査50点未満
後期試験	定期考査50点未満

### 3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

### 4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	80 %	仮評価	仮評価試験成績	100 %
	学習への取り組み	20 %		%	
		%		%	
		%		%	

### 5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
前	①機体構造、着陸装置	4	1)機体構造、着陸装置の章を再度復習し、理解する	仮評価 ①～②
	②操縦装置	5	1)操縦装置(人力、油圧動力操縦装置)の構造を理解する	
第	③飛行機に加わる荷重	6	1)操縦装置(フライ・バイ・ワイヤ)の構造を理解する 2)ケーブル・テンション(索張力)の測定方法を理解する	前期試験 ①～⑤
		7	1)飛行中に加わる荷重(主翼、胴体)を理解する	
二	④計器一般に関すること ⑤空ごう計器(高度計)	8	1)計器の種類と配置及び装備について理解する 2)標準大気と高度計について理解する	卒業試験 ⑥～⑪
		10	1)速度計、昇降計について構造、特性を理解する 2)ピトー・静圧系統の特性を理解する	
学	⑥速度計、昇降計 ⑦圧力計、温度計 ⑧回転計、流量計 ⑨ジャイロ計器	11	1)圧力計、温度計について構造、特性を理解する 2)回転計、流量計について構造、特性を理解する	卒業試験 ⑥～⑪
		12	1)ジャイロ計器の構造、特性を理解する	
年	⑩油圧系統 ⑪機体構造のまとめ	1	1)基本の油圧系統の構造について理解する 2)油圧系統の構成部品、作動原理を理解する	卒業試験 ⑥～⑪
		2	1)整備士試験問題集を活用して機体構造、計器を復習理解する	
期		3		

### 6 特記事項

--



科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
			2	2	学 年	二年次
航空ナビゲーションⅡ	講義	年単位時間	前期	後期	教 員	小倉 茂雄
			40	40	実務経験	有

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空気象通報式を理解する 航空管制及び空中航法(ナビゲーション)の基礎を理解する ジェット旅客機のナビゲーションを理解する
使用教科書・副教材等	パイロットに必要な航空気象 航空管制「超」入門、空中航法入門 ジェット旅客機のナビゲーション(プリント教材)
教員実務経験	運航管理者の資格を有して運航管理業務(気象解析等)に携わった経験

### 2 追試験基準

前期	定期考査50点未満
後期	定期考査50点未満

### 3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

### 4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	80 %	仮評価	仮評価 試験成績	100 %
	学習への取り組み	20 %		%	
		%		%	
		%		%	

### 5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 二 学 年	① 航空気象(1年次からの続き)	4	1) METAR(定時飛行場実況気象)を理解する	仮評価 1)~2) 前期試験 3)~6)
		5	2) TAF(飛行場予報)を理解する	
		6	3) 航空管制とは何かを理解する 4) 管制空域、VFR・IFRを理解する	
		7	5) 航空管制業務の流れを理解する 6) 航空管制を紙上体験する	
	8	7) 実際の航空管制を見つめる、聴いてみる (動画、DVD、ネットアプリ等)		
	③ 空中航法 航法概要 航空図 無線航法	10	1) 緯度・経度、方位・距離、時、風力三角形を理解する 2) 航空図の種類と特徴を理解する	
		11	3) 高度計、速度計について理解する 4) NDB、VOR/DME、VOR/TACについて理解する	
		12	5) 出発準備～エンジンスタートまでを理解する 6) 離陸～上昇までを理解する	
1		7) 巡航～着陸までを理解する		
2				
3				
④ ジェット旅客機の ナビゲーション				

### 6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
			1	1	学 年	二年次
航空法規Ⅱ	講義	年単位時間	前期	後期	教 員	比嘉 翼
			20	20	実務経験	無

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	(前期) 航空無線通信士受験対策として電波法規を学ぶ (後期) 航空法規(航空法、航空法施行規則)を理解する
使用教科書・副教材等	(前期) 航空無線通信士 合格精選310題 試験問題集 (後期) 航空整備士のための「航空法規等」-34のKeyで合格-
教員実務経験	

### 2 追試験基準

前期	定期考査50点未満
後期	定期考査50点未満

### 3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

### 4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	70 %	仮評価	仮評価 試験成績	100 %
	学習への取り組み	30 %			%
		%			%
		%			%

### 5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲	
第 二 学 年	【航空無線通信士 受験対策】 ① 電波法規 無線局の免許 無線設備、無線従事者 運用、監督・罰則 業務書類 関係法令、国際法	4	1) 電波法の目的、無線局の免許について理解する	仮評価 1)~2) 前期 3)~7)  試験	
		5	2) 無線設備、無線従事者について理解する 3) 運用について理解する		
		6	4) 運用、業務書類について理解する 5) 監督、罰則について理解する		
		7	6) 関係法令、国際法規について理解する 7) 過去問を通して、傾向と対策を理解する		
	② 国家試験受験	8	8) 国家試験を受験する		
	③ 航空法規 航空法の体系 航空機の登録 耐空証明、型式証明 認定事業場 航空従事者技能証明 航空日誌 航行の安全を確保する 装置 救急用具	10	1) 航空法の体系、目的、定義を理解する 2) 航空機の登録について理解する		1)~8) 試験
		11	3) 耐空証明、型式証明について理解する 4) 航空整備士の業務範囲について理解する		
		12	5) 認定事業場について理解する 6) 航空従事者技能証明について理解する		
1		7) 航空日誌、航行の安全を確保する装置について理解する 8) 救急用具について理解する			
2		9) 国家試験を受験する			
	3				

### 6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
			1	1	学 年	二年次
エアラインオペレーションⅡ	講義	年単位時間	前期	後期	教 員	小倉 茂雄
			20	20	実務経験	有

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	1年次に引き続き、運航管理者や客室乗務員、その他各職種の業務内容やエアラインのオペレーションについて理解する
使用教科書・副教材等	エアラインオペレーション入門
教員実務経験	航空会社で運航管理者としての実務経験あり

### 2 追試験基準

前期	定期考査50点未満
後期	定期考査50点未満

### 3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

### 4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	前・後期試験の成績	80 %	仮評価	仮評価試験の成績	100 %
	課題・学習活動への取り組み	20 %		%	
		%		%	
		%			%

### 5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 二 期	① 運航管理者業務	4	1) 運航管理を行う組織体制を理解する	仮評価 1)～3) 前期試験 4)～8)
		5	2) 運航管理者の業務、資格を理解する 3) 出発前の準備や旅客機の飛行計画を理解する	
		6	4) 管制業務について理解する 5) 運航に影響する気象現象について理解する	
	② 客室乗務員業務	7	6) CAの保安業務、緊急対策を理解する 7) 機内サービスについて理解する	
		8	8) CAの仕事、編成、資格について理解する	
		学 年 後 期	③ 旅客営業スタッフ業務	
④ 貨物営業スタッフ	11		3) 航空貨物の現状がわかる 4) 航空貨物の今後と貨物業務がわかる	
	12		5) 空港に関する課題がわかる	
⑤ 日本の航空輸送の課題	1		6) 航空の環境対策がわかる	
	2			
	3			

### 6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
			1	1	学 年	二年次
航空安全	講義	年単位時間	前期	後期	教 員	小倉 茂雄
			20	20	実務経験	有

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	失敗(ヒューマンエラー)及びヒューマンファクターを理解し、飛行の安全、作業の安全とは何かを理解する。また航空機事故事例を学ぶ。
使用教科書・副教材等	航空安全 TEXT 1(プリント教材) 航空機整備 ヒューマンファクターの基礎 事故事例研究(プリント教材)
教員実務経験	航空会社の安全推進委員会事務局において航空安全の推進、啓発、教育、予防対策及び安全監査等に携わった経験

### 2 追試験基準

前期	定期考査50点未満
後期	定期考査50点未満

### 3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

### 4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	80 %	仮評価	仮評価 試験成績	100 %
	学習への取り組み	20 %		%	
		%		%	
		%		%	

### 5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 二 期	① 失敗について ② 事故事例研究 テネリフェ空港事故 駿河湾上空ニアミス事故	4	1) 失敗とは、ヒューマンエラーとは 2) ウィッシュフル・ヒアリング、権威勾配等について理解する	①～② 仮評価 1)～3) 前期試験 4)～7)
		5	3) 事例研究1「テネリフェ空港ジャンボ機衝突事故」	
		6	4) リーダーシップ、声出し確認、指さし呼称等について理解する 5) リードバック、確認会話、ダブルチェック等について理解する	
		7	6) フールプルーフ、セルフモニタリング等について理解する 7) 事例研究2「駿河湾上空ニアミス事故」	
		8	8) 動画、DVDの視聴(「ハドソン川の奇跡」等)	
学 年 期	③ ヒューマンファクターの基礎 ④ 事故事例研究 アロハ航空事故 UA173燃料切れ事故 中華航空機炎上事故	10	1) ヒューマンファクターの重要性、概念、要因について理解する 2) 事例研究3「アロハ航空243便事故」	卒業試験 ③～④ 1)～8)
		11	3) ヒューマンエラーの管理、組織的な取り組みについて理解する 4) コミュニケーション、チームワーク等について理解する 5) 事例研究4「UA173便燃料切れ墜落事故」	
		12	6) 安全と健康について理解する 7) 状況認識について理解する	
		1	8) 事例研究5「中華航空120便炎上事故(那覇空港)」	
		2		
		3		

### 6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
基本技術Ⅱ	講義		1	1	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	呉屋 宏
			20	20	実務経験	有

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空機の整備作業に必要な技術的な知識を習得する
使用教科書・副教材等	・航空機の基本技術
教員実務経験	航空機整備支援業務に携わった経験

### 2 追試験基準

前期試験	定期考査50点未満
後期試験	定期考査50点未満

### 3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

### 4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	80 %	仮評価	仮評価試験成績	100 %
	学習への取り組み	20 %		%	
		%		%	
		%		%	

### 5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 二 期	①機械計測	4	1)機械計測の章を再度復習し、理解する	仮評価 ①～②
	②締結法	5	1)締結法、表面処理の章を再度復習し、理解する	
	③ケーブル	6	1)ケーブルの種類を理解する 2)ケーブルの性質を理解する	前期試験 ①～⑤
	④ホース・チューブ	7	1)ホースの構造と特徴を理解する 2)チューブの材料と使用範囲を理解する	
	⑤非破壊検査	8	1)非破壊検査の各種検査内容を理解する	
学 年 後 期	⑥構造修理	10	1)損傷部の処置の仕方を理解する 2)修理に必要なリベットの配置、本数の求め方を理解する	卒業試験 ⑥～⑨
	⑦成形法、作図知識	11	1)成形法を再度復習後、チャンネル型材の展開図を作成する	
	⑧法令	12	1)航空関連法規の概要を理解する 2)航空従事者に関する法令を理解する	
	⑨基本技術のまとめ	1	1)リベットの材料と特性を再度復習し、理解する 2)ベンチ作業の使用手法、注意点を再度復習し、理解する	
		2	1)締付法を再度復習後トルク・レンチ、トルク値の計算法を理解する 2)2年次学習した項目を整備士試験問題集活用して復習する	
	3			

### 6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
			4	4	学 年	二年次
航空無線Ⅱ	講義	年単位時間	前期	後期	教 員	小倉 茂雄
			80	80	実務経験	有

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	航空無線通信士資格取得
使用教科書・副教材等	①航空無線通信士 合格精選310題 試験問題集(無線工学) ②航空無線通信士 英語 試験問題集
教員実務経験	航空無線通信士の資格を有して無線業務に従事した経験

### 2 追試験基準

前期	定期考査50点未満
後期	定期考査50点未満

### 3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

### 4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	80 %	仮評価	仮評価 試験成績	100 %
	学習への取り組み	20 %			%
		%			%
		%			%

### 5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲		
前 期 二 年 学 年	【航空無線通信士 受験対策】 ① 無線工学(1年次からの続き) 試験問題集を解く その他の過去問を解く	4	1) 送信機・受信機、レーダーについて理解する 2) 英語試験問題集の過去問題③を解く、英文法を理解する	①～② 仮評価 1)～4) 前期試験 5)～9)		
		5	3) 電波航行装置、電源について理解する 4) 英語試験問題集の過去問題③を解く、英文法を理解する			
		6	5) 空中線・給電線、電波伝搬について理解する 6) 英語試験問題集の過去問題④を解く、英文法を理解する			
		7	7) 過去問を解く、英文法を理解する 8) 英語試験問題集の過去問題④を解く、英文法を理解する			
	③ 国家試験受験	8	9) 過去問を解く、英文法を理解する 10) 国家試験を受験する(8月24日)			
	後 期	【航空無線通信士 再受験対策】 ④ 無線工学 過去問を解く ⑤ 法規 過去問を解く ⑥ 英語・英会話 過去問を解く ⑦ 電気通信術 練習 送話、受話 ⑧ 国家試験受験	10		航空無線通信士試験 不合格科目に対する受験対策を実施	卒業試験 ④～⑥
			11		1) 不合格科目に対する弱点補強 2) 過去問、問題集等を再度履修し弱点を克服する	
			12		3) 電気通信術不合格者は、送話・受話の練習を行う 4) 英語不合格者は英文法を理解する	
			1		※航空特殊無線技士試験不合格者がいる場合は別途計画する	
			2		5) 国家試験を受験する(2月22日)	
3						

### 6 特記事項

--

科目名 英語Ⅱ	授業方法 講義	週単位時間	前期	後期	学 科	航空ビジネス科
			3	3	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	比嘉 翼
			60	60	実務経験	有

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	実用英語技能検定準2級を取得するための英語力を身につける
使用教科書・副教材等	わからないをわかるにかえる英検準2級 書いて覚える英検準2級合格ノート
教員実務経験	学習塾にて英語科目を担当

### 2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

### 3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

### 4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	50 %	仮評価	仮評価試験の成績	100 %
	学習への取り組み	20 %		%	
	課題・提出物・小テスト	30 %		%	
		%		%	

### 5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 二 学 年	①文法	4	1)現在完了形・現在完了進行形 2)過去完了形・過去完了進行形・未来完了形	仮評価試験 ①前期試験 ②  卒業試験 ④～⑤
		5	1)助動詞 2)注意すべき受け身の文	
		6	1)不定詞 2)動名詞 3)分詞、分詞構文	
		7	1)仮定法 2)関係代名詞	
	8	1)関係副詞、複合関係詞 2)比較の表現		
	③重要単語・熟語	10	1)重要名詞 2)重要動詞	
		11	1)形容詞・副詞 2)重要熟語	
		12	1)問題集や過去問を通して、試験解答の時間配分の感覚をつかむ	
⑤二次試験対策		1	1)二次試験(面接)の流れがわかる 2)問題カードによる質問対策	
	2	1)受験者自身の意見を問う質問対策		
	3			

### 6 特記事項

--